

キャラクター名

プレイヤー名

暁 天音

シンドローム	ハヌマーン		ワークス	中学生	カヴァー	
	ハヌマーン					
オブショナル			年齢	15	性別	女性
覚醒	感染	衝動	恐怖		初期侵食率	31%
出自	病弱	経験	隠し		邂逅	信頼

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	30
肉体	2	0	0			2	行動値	12
感覚	2	1	0			3	(非装備時)	12
精神	2	0	2	2		6	戦闘移動	17
社会	2	0	1	0		3	全力移動	34

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	5		交渉		
回避	1		知覚	2		意志	2		調達	6	
運転：			芸術：			知識：			情報：噂話	6	
運転：			芸術：			知識：			情報：ウェブ	4	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
【破滅の序章】		0				侵蝕率0～59
【誘いの旋律】						侵蝕率60～79
【破滅の輪舞曲】						侵蝕率80～99
【断末の終末歌】						侵蝕率100～129

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ「噂好きの友人」	
コネ「ハッカー」	
自動巡回ソフト	
コネ「警察」	
メモリー「暁 当夜」	

プレイヤー名

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
音使い	P	N		
耶馬谷 円	P 尊敬	N 嫉妬		
御神 照雄	P 同情	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	18	残り財産P:	13
--------	----	--------	----

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
コンセントレイト(HM)	2	2	Xジャー	-	-	シンドローム	-	
効果：クリティカル値を-[Lv]								
バトルビート	2	2	マイナー	至近	自身	-	-	
効果：使用したメインプロセス中の、ハヌマーンのエフェクトを使用した判定のダイスを+Lv.個する。								
援護の風	1	2	オート	視界	-	RC	-	
効果：直後の判定ダイス+Lv ラウンド1回								
音波調律	1	2	Xジャー	視界	-	交渉	-	
効果：対象の【暴走】以外のバッドステータスを全て回復する。								
音界の王	1	6	シンドローム	至近	自身		ダイス	
効果：このエフェクトを組み合わせたハヌマーンのエフェクトのレベルを+1する。使用したメインプロセス終了時にHPを-5する								
振動球	3	2	Xジャー	視界	-	RC	-	
効果：								
マシラのごとく	1	5	Xジャー		単体	シンドローム		
効果：攻撃力Lv								
アンチェイン	1	3	マイナー					
効果：判定ダイス+5								
風の支配者	1							
効果：片手で持てるものを動かせる。PCが持つてるものやPC自身は不可能								
高濃度酸素バブル	1							
効果：高濃度の酸素で満たされた空間を作り出す。リラックス効果、疲労回復、集中力増加。								
効果：								
効果：								
効果：								

記憶喪失の少女

幼少期の頃の記憶をほとんど失っており、はっきりと思い出せるのは自らの名前と年齢くらいである。

薄はんやりと「自分には兄がいた」という記憶は残っているのだが、その兄が何歳だったのかも思い出せていない。何となくぶっくらぼうだけど自分を氣にかけてくれる人だというのは思い出せるのだが、どんな人物だったのかもはっきりしておらず、そもそも自分は何人家族だったのかも定かではない。

記憶障害により覚醒時についてもあやふやとなっており、両親の姿が見えないので恐らく亡くなったのだろう、と臆気ながらにいいにっているのだが思い入れを特に感じず、寧ろ居たかも知れない兄の存在を良く氣にかけている。

恐らく覚醒時、天音は何もないところで呆然と立ち尽くしていたのを「暁 当夜」の手によって保護された。以来彼女にとって保護者は当夜であるため、自らの意思で性を唯一記憶にあった「御園」から「暁」へと変えることを望み、それ以降自らの名を「暁 天音」と名乗るようになった。

当夜に保護された当時は記憶障害の影響が精神的に酷く不安定な兆候が見られたために病院で受診、今は比較的安定してはいるが、念のためにそれ以降も「白間ネア」の診療所で定期的に検診を受けている。

元々病氣がちだった事もあったために比較的良く体調を崩す姿が見られているが、比較的軽い症状であることがほとんどで、レネゲイドウィルスとの関連性に興味を持った白間に、定期検診のついでにと軽い実験にも付き合わされているようだが、本人が苦痛に感じていないので当夜のほうでも目こぼしされている状態らしい。

幼少期の記憶障害と言っても全て忘れてはではなく、幼年期頃の記憶は比較的覚えていることが多いようで、当時の交友関係などもある程度覚えている。しかし、幼少期の一部の記憶が穴が空いたように抜け落ちている。恐らくその抜け落ちた部分に覚醒に関わる何かがあるのだろうが、本人が特に思い出そうと思っていない。

今は、漠然と自分には優しいお父さんとお母さんが居て、ぶっくらぼうだけど自分のことをそれとなく氣にかけてくれる「一人の兄」がいた、ということだけを覚えているようだ。